麻しん風しん混合予防接種について

◆麻しん風しんとは

〇麻しんについて

麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が非常に高く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。10 日前後の潜伏期の後、「カタル症状（鼻水・咳・結膜充血・めやに等）」と共に 38℃以上の発熱が 3～4 日見られます。

解熱するかのように見えるものの再び高熱となり全身に発疹が現れて高熱は５日前後続きます。

発疹が現れる前より「コプリック斑（周りが赤く中心が白い口腔粘膜にできる粘膜疹）」と呼ばれる粘膜疹が頬の内側に認められることがあります。

解熱後、発疹は次第に消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

麻しんウイルスの感染により、免疫機能低下を来たすため、二次感染による肺炎、中耳炎、脳炎を起こすことがあります。

脳炎は約 1000 人に２人の割合でみられます。亜急性硬化性全脳炎（ＳＳＰＥ）とういう慢性に経過する脳炎は、１００万人に２１人でみられました（平成５年調査）。

〇風しんについて

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は２～３週間で、軽い風邪の症状で始まり、発疹・発熱・後頸部リンパ節腫脹を主症状とします。眼球結膜の充血も見られます。発疹も熱も３日間位で治るので「三日はしか」といわれることがあります。

症状は比較的軽く、予後は一般的に良好ですが、合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。

また、大人が罹患すると重症化しやすいといわれています。

さらに、妊娠初期に風しんウイルスに感染すると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により、心臓病・白内障・聴力障害などの障害を持った児が生れる可能性が高くなります。

【対象年齢・スケジュール】

	対象年齢	接種回数
第１期	**生後１歳以上２歳未満**	**１回**
第２期	**小学校就学前の１年間 （幼稚園・保育園等の年長児）**	**１回**

※麻しんまたは風しんのどちらかにかかったことがある方も、麻しん風しん混合ワクチンを接種します。

※麻しんおよび風しんの両方に罹患したことのある方は接種の必要はありません。

【副反応について】

発熱（接種した者のうち 20%程度）や発疹（接種した者のうち 10%程度）です。これらの症状は接種後５～１４日の間に多く見られます。

接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱・発疹・かゆみなどがみられることがありますが、これらの症状は通常１～３日で治まります。

時に、接種した場所の発赤・腫脹・硬結（しこり）などが見られることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。

極めてまれに重い副反応（ショック症状、脳炎、けいれん等）が報告されています。

【注意事項】

輸血またはガンマグロブリン製剤の注射を受けた方は、麻しん風しん混合ワクチンの接種可能時期を医師に確認してください。

＊ガンマグロブリンは、血液製剤の一種でＡ型肝炎等の感染症の予防目的や重症感染症治療目的で注射することがあります。

【麻しん風しん混合ワクチン（ＭＲワクチン）について】

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化して作ったワクチンです。

極めて微量ですが、鶏の胚細胞成分を含んでいます。しかし、卵成分はほとんど含まれていませんので、卵アレルギーを理由にワクチンを接種できないということはありません。

ただし、ワクチンに含まれる他の成分によるアレルギー反応を起こすことがありますので、卵に限ったものではなく、アレルギー症状の強い場合は専門医に相談してください。